

三豊市長 就任式

豊かさで誇りを 実感できるまちへ

山下市政2期目スタート

任期満了に伴う三豊市長選挙が1月30日に執行され、山下昭史市長が無投票で再選されました。



▲職員への訓示を行う山下市長

山下市長は、2月1日（火）、大勢の職員に拍手で迎えられながら三豊市役所へ初登庁。その後、幹部職員を前に訓示を行いました。「われわれが取り組まなければならないことは山ほどある。コロナ禍という状況や社会の変化に“果敢に”立ち向かって行かなければならない。市民の皆さんの幸せ、豊かさ、健康、安心安全のために、私が先頭を切ってやっていくので、皆さんのご協力をお願いしたい」と訴えました。

山下市長 就任インタビュー

市長に2期目スタートにあたっての意気込み、これからのまちづくりなどについて聞きました。

就任おめでとうございます。2期目スタートにあたっての意気込みをお聞かせください。
 コロナ禍が常態化している中で、さまざまな施策に躊躇することなくスピード感を持って取り組んでいきます。いかに市民の皆さんに寄り添えるかがかけて市政運営にあたります。

1期目での嬉しかった出来事、困難だったことはありますか。
 嬉しかったことは一般社団法人みとよAI社会推進機構(MaiZM)からベンチャー企業が2つ立ち上がったこと、自分の政策の柱がスタートできたことです。例えば、薬用作物の栽培研究会のメンバーが増えていったことや、MaaS*に関するさまざまな施策のスタートを切れたことです。
困難だったことは、市内での鳥インフルエンザの発生と新型コロナウイルスの感染拡大です。市民の生活、健康が危険にさらされており、行政だけではどうしようもないこと、一番頭を悩ませました。

* MaaS……多様な交通手段を最適に組み合わせ、一つのサービスとしてとらえること



三豊市の課題と課題に対する取り組み 人口減少対策への取り組みについてお聞かせください。

三豊市の課題は、何といっても人口減少やそれに伴う移動困難者がいることです。人が活発に動けない環境になりつつあるため、子どもも大人も高齢者も、さまざまな年齢層の人がやりたいことをやれる環境づくりが大切だと考えています。「三豊だから、田舎だからしょうがないか」というあきらめの考えが出てくるのが一番危険です。選択肢を増やし、市民の皆さん一人ひとりが三豊市で暮らすことの「豊かさ」や「誇り」を実感できることが人口減少の一つの歯止めになると考えています。

コロナ禍における行政

コロナ禍における行政のあり方に関する考えをお聞かせください。

行政は、市民の皆さんの健康と安心を守っていかねばなりません。困難な状況では、優先順位をつけていくことが一番重要です。無料の抗原検査や、小・中学生の抗原検査は、リスクもありますが、検査をすぐに受けられると、それが安心につながります。少しでも市民の皆さんが安心できる方法を考えています。

力を入れていきたい施策

Q1. 「健康」に関して、宝山湖ボールパーク構想の取り組みや、「市立みとよ市民病院」開院の望む効果についてお聞かせください。

健康

施策の根幹となるのは、「健康」です。三豊市では糖尿病の罹患率が高い傾向にありますが、人の活動の根幹は健康です。宝山湖ボールパークを、市民の皆さんに活用していただいて、健康になってほしいと思っています。また、それだけではなく、合宿誘致や交流イベントなどによって山間部のにぎわいにもつながると考えています。
 春に開院予定の「市立みとよ市民病院」は、市民の健康を守る最後の砦として、一人ひとりに寄り添った医療を提供し、病気になることからではなく、予防にも寄与することを期待しています。

Q2. 「教育」に関する考えや夜間中学の開設に向けた思いをお聞かせください。

教育

教育は、受ける権利と受けさせる義務が憲法で明記されているように、家庭環境や社会環境によって、学べない不公平があつてはなりません。夜間中学の開設は「誰一人置き去りにしない」環境づくりや、一人ひとりの学ぶ喜びにつながります。教育とは学校教育だけではなく、知的好奇心や学ぶ喜びなど、知らないことを知る学びだと考えています。広い意味での教育の本質を再構築したいと思っています。また、宝山湖ボールパークは子どもたちの

選択肢を広げる一つのきっかけになります。部活動の種類もどんどん減ってきていますが、先に述べたように「三豊だから、部活がないから」とあきらめる子どもたちをできるだけ少なくしたいと思っています。
Q3. 新たな取り組みとなる「脱炭素」についての考えをお聞かせください。

脱炭素

脱炭素社会の実現に向けた取り組みは、ただ単に二酸化炭素を減らすことだけではないと思っています。三豊市の場合、人が少ない分、二酸化炭素の排出量は少なく、酸素の供給量の方が多いはずですが、二酸化炭素を減らすとすると、究極、人が住めなくなってしまう。二酸化炭素を減らすのではなく、逆に酸素を供給するという役割。他の地域の二酸化炭素の排出量を減らすために、三豊市の酸素を増やす。そのような、一歩踏み込んだ取り組みを三豊市のやり方で実現できるはずなので、その仕組みづくりができればと思っています。

市民の皆さんへ

行政は、市民の皆さんの身近にあるべきです。寄り添っていきける行政で、より良い三豊市になるよう全力を注いでいきます。どうぞよろしくお願いいたします。

